

各 位

武雄・杵島地区農業指導連絡協議会
杵島農業振興センター

「稲作情報（第 8 号）」について（送付）

このことについて、下記のとおり「稲作情報（第 8 号）」を送付しますので、業務の参考にしてください。

1．気象概況

月	半旬	平均気温			最高気温			最低気温			降水量			日照時間		
		平年 (℃)	R7 (℃)	平年差 (℃)	平年 (℃)	R7 (℃)	平年差 (℃)	平年 (℃)	R7 (℃)	平年差 (℃)	平年 (mm)	R7 (mm)	平年比 (%)	平年 (hr)	R7 (hr)	平年比 (%)
8月	1	28.3	29.4	1.1	33.4	35.5	2.1	24.5	25.5	1.0	29.3	22.0	75.1	35.5	44.0	123.9
	2	28.2	28.0	-0.2	33.3	30.9	-2.4	24.5	25.6	1.1	30.0	162.5	541.7	34.7	9.8	28.2
	3	28.0		-28.0	33.0		-33.0	24.4		-24.4	32.8		0.0	32.8		0.0
	4	27.6		-27.6	32.6		-32.6	24.1		-24.1	35.0		0.0	31.4		0.0
	5	27.1		-27.1	32.2		-32.2	23.5		-23.5	37.9		0.0	30.1		0.0
	6	26.4		-26.4	31.5		-31.5	22.8		-22.8	48.6		0.0	34.3		0.0

○ 8 月 2 半旬の平均気温は、0. 2℃低く、最高気温は2. 4℃低い、最低気温は1. 1℃高かった。降水量は平年比 5 4 2 % と多く、日照時間は平年比 2 0 . 2 % と少なくなった。

2．水稻情報田の生育状況（調査日：8 月 1 3 日）

項目 品種(設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 6/21 移植 武雄市橘町 ※2	本年値	75. 1	400	12. 4	35. 6	・草丈は平年比97%と低い。 茎数は平年比98%とやや少ない。 ・主稈出葉数は平年より、 0. 6葉少ない。 ・葉色はやや濃い。
	前年値	83. 7	411	13. 2	33. 1	
	平年値 ※1	77. 2	409	13. 0	34. 7	
	平年比	97	98	-0. 6	0. 9	

※1 さがびよりの平年値は H21～R6 の平均値
※2 本年移植日 6 月 21 日 平年移植日 6 月 21 日
栽植密度 14. 8 株/㎡

項目 品種(設置場所)	年 次	草 丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
ひなたまる 6/25 移植 白石町	本年値	75. 3	472	13. 5	42. 5	

栽植密度 18.6 株/㎡

本年産水稻の生育状況（8 月 13 日）

移植日	項目 品種	年 次	草 丈 cm	茎 数 本／㎡	葉 齢 L	葉 色 SPAD	概 況 (平年または前年との比較)
6 月 18 日	夢しずく	本 年	96.3	362	13.2	39.3	【気象】 8 月 6 日～8 月 12 日まで ◆平均気温…0.4℃低い ◆日照時間…短い(平年比 33%) ◆降水量…多い(平年比 461%)
		平 年	85.5	393	13.3	37.0	
		平年比(差)	113	92	(-0.1)	(+2.3)	
	ヒノ ヒカリ	本 年	84.7	459	13.8	38.8	【生育】 ◆草丈 「夢しずく」は高い、「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」はやや高い、「ひなたまる」は低い。 ◆茎数 「夢しずく」は少ない、「ヒノヒカリ」はやや少ない、「さがびより」はやや多い、「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「ヒノヒカリ」はやや進んでいる、その他の品種は平年並み。 ◆葉色(SPAD 値) 「夢しずく」は濃い、「ヒノヒカリ」、「さがびより」はやや濃い、「ヒヨクモチ」は平年並み、「ひなたまる」は淡い。
		平 年	82.4	483	13.4	37.1	
	平年比(差)	103	95	(+0.4)	(+1.7)		
ひなた まる	本 年	79.3	415	14.2	37.2		
	前 年	88.0	379	14.1	43.9		
6 月 20 日	さが びより	本 年	80.3	502	13.8	37.0	
		平 年	78.2	479	13.6	35.7	
		平年比(差)	103	105	(+0.2)	(+1.3)	
	ヒヨク モチ	本 年	75.0	769	13.9	35.8	
		平 年	71.8	624	13.8	35.9	
		平年比(差)	104	123	(+0.1)	(-0.1)	
留 意 点	○「さがびより」は穂肥の施用時期となっており、「ヒヨクモチ」もまもなく迎える。穂肥診断に基づき施用を行う。 ○「夢しずく」は走り穂がみられ、間もなく出穂期を迎える。穂揃い期以降は間断灌水を行い、土壌を固めるとともに根の活性化を図る。 ○「ひなたまる」、「さがびより」は穂ばらみ期～穂揃い期までは浅水管理を行い、「ヒヨクモチ」は中干しを終わらせ間断灌水に切り替える。 ○「ひなたまる」、「ヒヨクモチ」は紋枯病を確認した。農業技術防除センターの発生予察情報及び圃場を確認し、適期防除に努める。						

注 1)「夢しずく」、「ひなたまる」、「ヒノヒカリ」は、6 月 18 日移植の稚苗(播種期 5/26, 播種量 湿粳 180g/箱)

3. 今後の管理

(1) 夢しずく（普通期）

○現在、出穂期から穂揃期である。

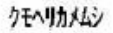
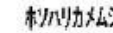
- ・穂揃期前後は要水量が最も多い時期である。必ず湛水管理を徹底する。
- ・穂揃い期以降は間断灌水を行い、土壌を固めると共に根の活性化を図る。（土が柔らかい圃場では、間断灌水の断水期間を長めにし土を固める。）

(2) 普通期水稻

○現在、生育ステージは幼穂形成期～穂孕期である。

- ・幼穂形成期から出穂期にかけて要水量が増加する時期であるので、間断灌水を行い落水時
も足跡に水が残る程度とする。

(3) 病虫害対策

作物名	病虫害名 ^{注1)}	8月の予想発生量 ^{注2)} 平年比	予報対象の病虫害 (抜粋)
水稻 (早期)	紋枯病	並	斑点米カメムシ類 
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稻 (山間早植え)	穂いもち	並	 クモハカミシ  ホトハカミシ
	紋枯病	やや多	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	斑点米カメムシ類	やや多	
水稻 (普通期)	穂いもち	並	 トビイロウンカ  イカミシ
	紋枯病	やや多	
	白葉枯病	並	
	もみ枯細菌病	並	
	トビイロウンカ	並	
	コブノメイガ	やや多	
	フタオビコヤガ	並	
	斑点米カメムシ類	やや多	

① ウンカ類

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月16日～23日に飛来が確認されている。
- ・コブノメイガは6月16日頃から飛来が確認されている。
- ・発生予測は随時更新されるため、最新情報は佐賀県農業技術防除センターのホームページを参照。
- ・今後の飛来状況や圃場での発生状況（移植時期や品種、箱施用剤の種類、施用の有無、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量や増殖率が異なるため、圃場での発生状況に注意する。

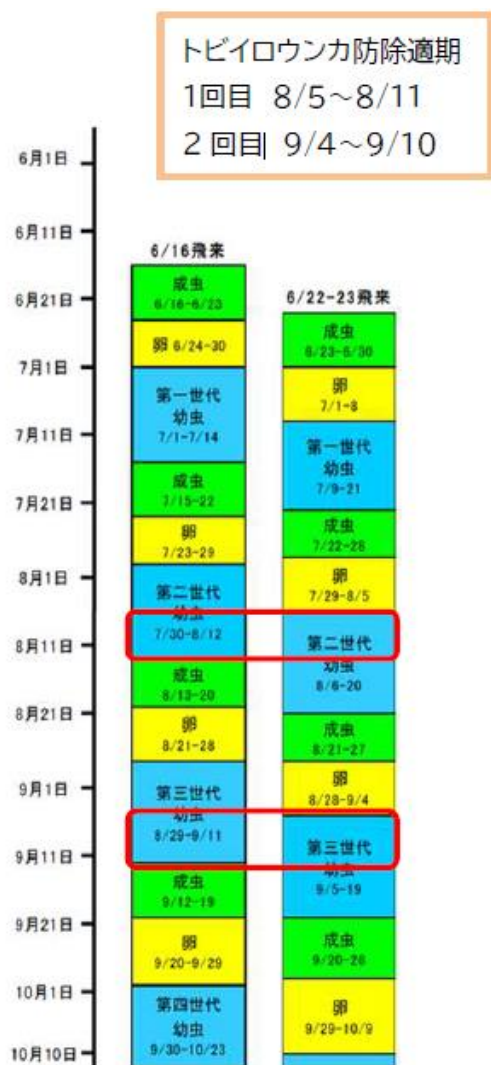
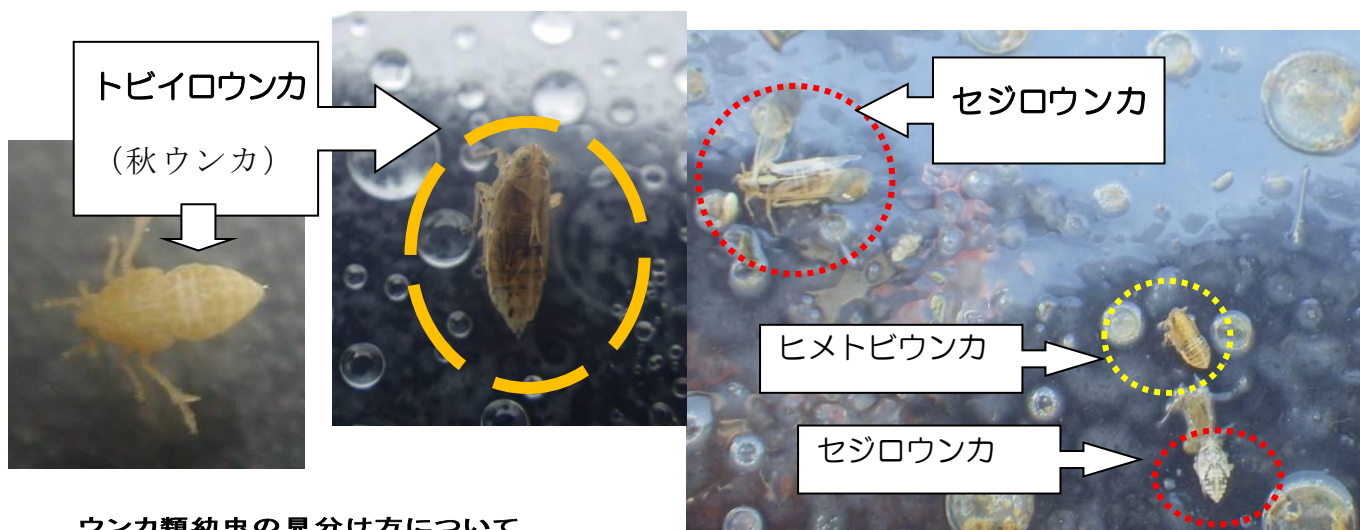


図1 トビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2025年7月2日作成)



図2 コブノメイガ各世代の発生予測 (第1版、2025年7月2日作成)



ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	○ : 真横
トビイロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	○ : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	○ : 斜め後ろ

② 斑点米カメムシ

- ・ 本年は斑点米カメムシの発生が平年より多く、8月6日時点で予察注意報となっている。
以下の点について留意する。
- ・ 「夢しずく」は出穂期を迎えている。斑点米カメムシ類を中心とした乳熟期（穂揃い後10日目頃）の防除を徹底して、斑点米カメムシの被害防止を図る。

発生が多い圃場では穂揃い期（出穂後5日頃）と乳熟期の2回防除を実施する。

★多発生の目安 ⇒ 20回のすくいとり調査でカメムシが5頭以上の場合（穂揃期～乳熟期）

- ・ 出穂10日前までの畦畔除草は、耕種的防除の観点から効果的である。

カメムシはイネ科雑草を好むことから畦畔だけでなく圃場内に発生している雑草の除草も併せて行うよう努める。畦畔を100m歩いて、カメムシが3頭いたら、要注意である。

③ 紋枯病

- ・ 幼穂形成期以降は、各品種とも病気に対する抵抗力が弱まる。今後、気温が高くなることから、紋枯病が進展する可能性があるため発生には十分注意する。

- ・ 病斑が上位葉の葉鞘に進展する前の防除が効果的である。

（液剤、粉剤の場合は出穂10日～20日前の防除とする）



紋枯病

特に「ひなたまる」は紋枯病に弱く、過去には紋枯病が多発し、倒伏した事例もあるため、防除を徹底する。

（4）干ばつ（強風）対策

- 現在、普通期の水稻の生育ステージは、最も用水を必要とする穂孕み期、そして穂揃期であるため、常時湛水するよう（圃場が白乾しないようにする）こまめな用水管理に努める。

4. 大豆の管理について

○ 7月上旬ごろの晴れ間に播種された圃場では、本葉 7～9 葉期を迎えている。

7月下旬ごろに播種された圃場では本葉 4～5 葉期を迎えている。

(1) 中耕・培土

① 中耕・培土には様々な効果があり、積極的に収量を上げるための重要な作業である。

中耕・培土の主な効果

○ 培土部分からの不定根の発生を促進し、養水分の吸収をよくする。

○ 株元に土を寄せて、倒伏を防止する

○ 土壌を膨軟にし、通気性を改善する

○ 土壌を攪拌し、雑草の発生を抑える
(雑草を防除する)

○ 畦が作られ、排水性が向上する

(表面排水を促進し湿害を受けにくくする)

○ 1 回目 (本葉 2～3 葉期) …生育初期の雑草防除、土壌中への酸素供給。

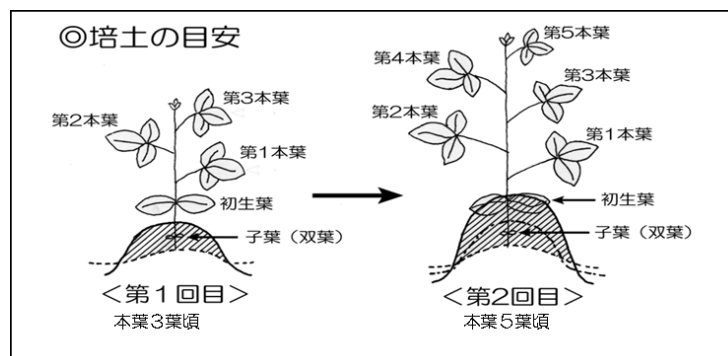
○ 2 回目 (本葉 4～5 葉期) …除草効果＋土壌通気性向上

＋新根発生促進 ＋倒伏防止。

※ 培土は開花 1 週間前までに終了すること！

② 開花後の中耕は断根による悪影響が大きくなるので開花前に終わる。

③ 乾燥が続く場合には乾燥を助長するため行わない。ただし、畦立てができていない圃場においては今後の大雨に備えて畦立てを目的として実施する。



(2) 干ばつ対策

- ・ コルゲート管の閉栓が土壤水分確保に有効である。



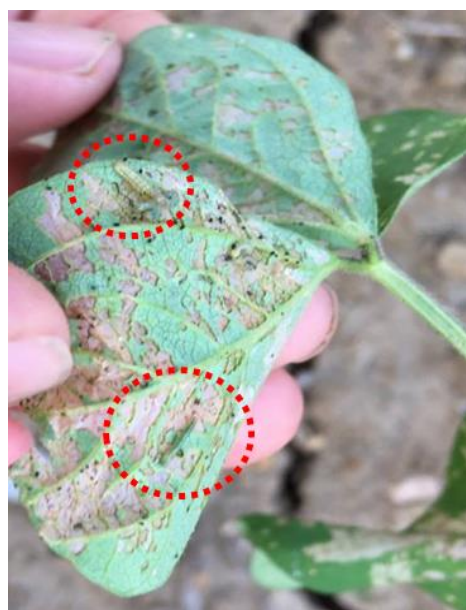
(3) 雑草対策

- ・ 出芽後の雑草対策としては、生育期除草剤となるので開花時期までに下記の除草剤で対策を行う。近年難防除雑草といわれる「アサガオ類」や「ホオズキ類」の発生が目立ってきている。以下に留意して適期防除につなげる。
 - ① アサガオ類やホオズキ類等の難防除雑草は、圃場内の侵入を防止することが重要。見つけ次第、手で抜き取る。
 - ② 難防除雑草が侵入した圃場は、土壌処理剤と茎葉処理剤を体系処理する。
 - ③ アサガオ類では、播種前のトレファノサイド乳剤の土壌混和处理や、大豆バサグラン液剤、パワーガイザー液剤等の茎葉散布等による防除が有効であるが、完全に抑えることは難しい。
 - ④ ホオズキ類では、リニュロンを含む土壌処理剤（ラクサー乳剤等）の効果が高い。

薬剤名	10a 当り 散布量	散布時期	使用上の注意
ポルトフロアブル	200～300ml	イネ科雑草 3～10葉期 収穫30日前まで	・ イネ科雑草のみ（スズメカサネ除外） ・ イネ科雑草が完全に枯殺するには、 約1週間を要する。
パワーガイザー液剤 （畦間処理）	200～300ml	生育期 （雑草発生揃期～2葉期） 収穫30日前まで	・ 畦間処理を行い大豆にかからない ように注意する。
バスタ液剤 （畦間処理）	300～500ml	収穫28日前まで	・ 畦間処理を行い大豆にかからない ように注意する。

(4) 病虫害防除（ハスモンヨトウ）

- ・ 8月中～下旬頃の白変葉が散見され始める時に1回目の防除を行い、その後は発生量に考慮して10～15日間隔で防除を行う。
- ・ フェロモントラップを設置している地区やほ場においては、8月下旬～9月下旬にフェロモンによる誘殺数が増加するとは場内の白変葉も増加する傾向がある。従って、フェロモントラップの誘殺数が急増した時に、ほ場で白変葉やハスモンヨトウの発生状況を調査して防除要否を判断する。
- ・ ハスモンヨトウは1回目の適期防除を行っても、その後の追加防除はその年の気象条件やほ場によって異なる。特に、夏期が高温で経過し、大豆の生育が良好な年は、大豆白変葉の観察やフェロモントラップ調査をこまめに行い、防除が必要と判断された場合は、早急に追加防除を行う。
- ・ 農薬が茎葉内部及び着莢部に十分到達するように散布する。
- ・ 地上散布において展着剤としてササヲを加用することで、調整時の泡立ちが抑えられるとともに、湿展性が向上する。



ハスモンヨトウによる白変葉

【オオタバコガ・シロイチモジヨトウ】→ 葉っぱに穴が開く

- ・ 高温少雨が続いたためハスモンヨトウと同様に多発条件となっている。
- ・ オオタバコガのフェロモントラップへの誘殺数は7月6半旬に増加し平年より多い（図1）。
- ・ シロイチモジヨトウのフェロモントラップへの誘殺数は、平年より多い（図2）。
- ・ 九州北部地方の1か月予報（福岡管区気象台8月7日発表）では、向こう1か月の気温は平年より高いと予想されており、オオタバコガ、シロイチモジヨトウの増殖・活動に好適である。
- ・ 管内でも一部、オオタバコガやシロイチモジヨトウの発生が見られている。
- ・ オオタバコガやシロイチモジヨトウには、ノーモルト、トレボン感受性が低下している。

（防除効果が高い剤：プロフレア、グレーシア等）

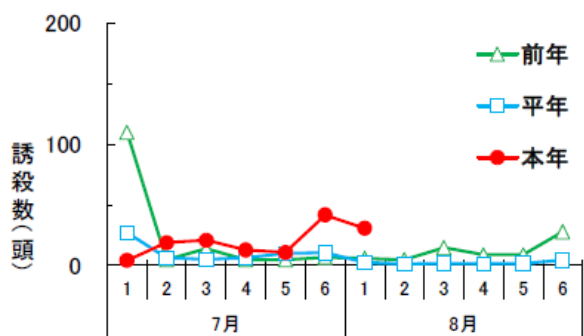


図1 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(佐賀市川副町・農業試験研究センター調査)

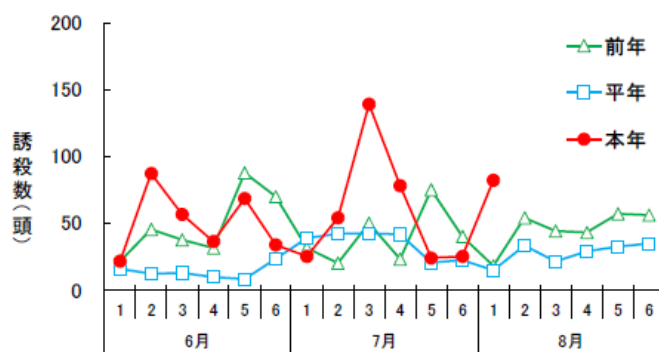


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの半旬別誘殺数
(佐賀市川副町・農業試験研究センター調査)



オオタバコガ幼虫
(2025年8月7日撮影)



シロイチモジヨトウ幼虫
(2023年11月撮影)